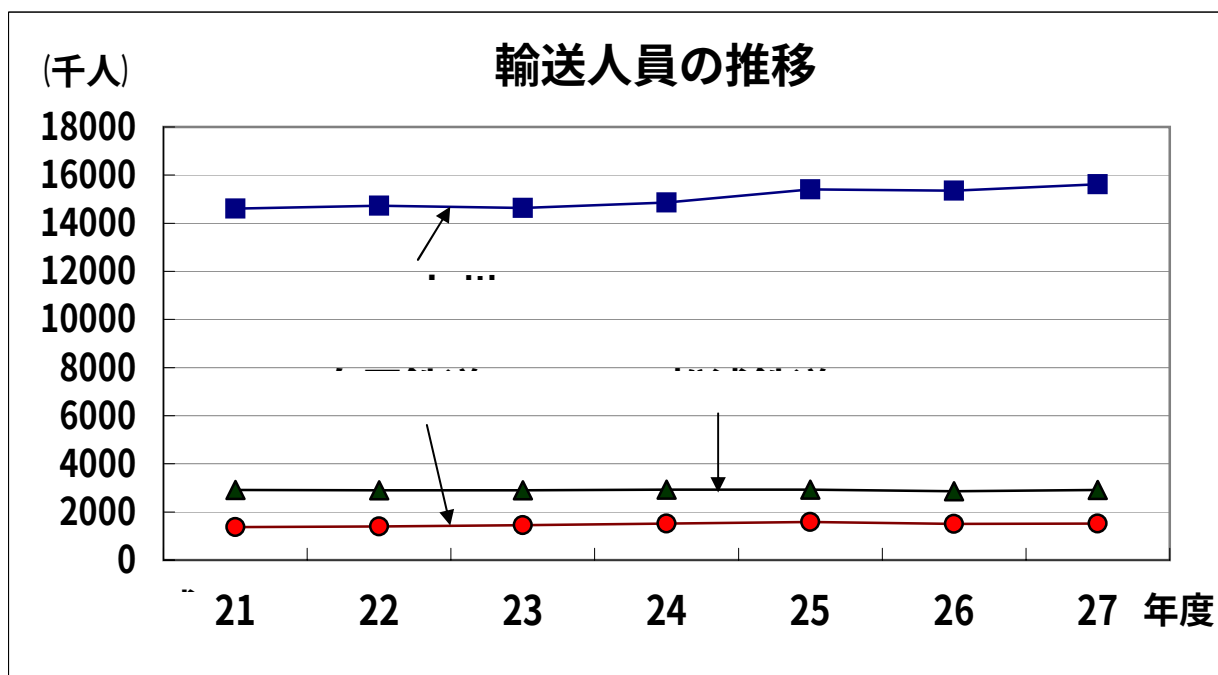


鉄道利用の概況



県内鉄道の緒元

(平成28年4月現在)

鉄道会社	営業キロ (km)	駅数	複線化キロ (km)	複線化率 (%)	電化キロ (km)	電化率 (%)
JR九州	127.2	37	8.1	6.4	60.8	47.8
島原鉄道	43.2	24	-	-	-	-
松浦鉄道	93.8	57	-	-	-	-

※松浦鉄道(MR)は、全線に係るもの

利用者数の推移

(単位:千人)

平成(年度)	21	22	23	24	25	26	27
JR九州	14,608	14,729	14,638	14,859	15,407	15,353	15,621
島原鉄道	1,368	1,397	1,445	1,514	1,583	1,509	1,521
松浦鉄道	2,907	2,898	2,902	2,931	2,928	2,864	2,908

※JR九州は、県内各駅の乗車人員の合計

※島原鉄道と松浦鉄道は、全線各駅の輸送人員の合計

※松浦鉄道は、長崎・佐賀両県の利用者数

本県に路線を有するＪＲ九州、島原鉄道、松浦鉄道は基幹的な輸送機関として、地域の均衡ある発展と利便性の向上のため、輸送力の増強と輸送サービス改善に努めている。

ＪＲ九州は、安全を全事業の基盤とし、より一層のサービス向上に努め、鉄道利用促進に取り組んでいる。Ｄ＆Ｓ列車「或る列車」の運行や、地域のイベントと連携したＪＲ九州ウォーキングの実施など、地域に密着した顧客サービスの向上を図るとともに、平成２８年１０月から１２月には本県と共同で「長崎デスティネーションキャンペーン」を開催するなど、集客に取り組んでいる。

県内各駅における平成２７年度の総乗車人員は１５，６２１千人で、対前年１０２％となっている。

島原鉄道は、島原半島の主要な公共交通機関として、朝夕の通勤・通学時間帯の列車増便、並行路線のバスとの運行調整や諫早駅でのＪＲ接続便やバス乗り継ぎ時間の見直し等により、利便性及び顧客サービスの向上に努め、島原観光の振興にも寄与していたが、近年、地域の少子高齢化の進行、マイカーの普及により輸送人員が減少していた。

会社は経営合理化等改善に取り組んだが、赤字の主因である鉄道について改善が見込めず、地域と協議を行い、利用者が少ない南線（島原外港駅～加津佐駅間）を平成２０年４月１日廃止し、路線バス輸送へ転換した。

輸送人員について、平成２１年度から増加傾向にあったが、平成２７年度は１，５２１千人で対前年１０１％となっている。

松浦鉄道は、地域に密着した公共交通機関として、朝夕の通勤・通学に重要な役割を果たしており、安全運行確保を目指し、平成１６年度から施設設備の整備事業に計画的に取り組んでいる。

また、利用促進の取組として、ビール列車等の企画列車の運行にも力を入れているほか、指定の乗車券を提示すると地元商店街でサービスが受けられる「ＭＲおもてなし協賛店」制度を実施するなど、地域と連携した取り組みを実施している。

輸送人員は、平成２１年度から概ね横ばいで推移しており、平成２７年度の輸送人員は２，９０８千人で、対前年１０２％となっている。

今後の安定した経営基盤の確立のためには、利用促進や安全運行の確保のため、施設の適切な維持・管理が必要であり、より一層の経営努力と地元関係者の積極的な協力が不可欠となっている。

(県新幹線・総合交通対策課)